

【担当委員会名】 研修委員会

【タイトル】 税を考える週間会員大会・講演会

【日時】 平成22年11月11日(木) PM4:00~PM5:00

【場所】 亀戸天神 参集殿

【演題】 「税務雑感」

【講師】 市原 署長 (江東東税務署)



【概要】

会員80名が参加して行われた。

講演は、まず「最近の消費税論議」について、平成元年の消費税導入（税率3%）から、平成15年の税率が5%への引き上げなど、消費税導入の沿革や現在の少子・高齢社会情勢の中、安定した財源としての消費税について、新聞紙上等での議論を紹介した。

次に、単身赴任時代の経験談として、平成11年に千葉県銚子税務署、平成19年に山口県柳井税務署と二度の単身赴任経験の中から、柳井での単身

赴任では、本を沢山買い込んで読書をしたり、休日には四国や九州まで旅をするなど、楽しい経験をしたことを紹介された。

また、生活ゴミの多さにショックを覚えたという話では、納豆一つとってもトレイの中に納豆、その上をビニールが被い、さらにそこにタレやカラシが加えられ、これだけでもかなりのゴミとなる等、単身赴任によって感じた日常での問題を紹介いただいた。



最後に、昨年も講話された小説「坂の上の雲」についての幾つかのエピソードや作者の司馬遼太郎氏の歴史観などを紹介した後、司馬氏が小学生5年生向けに書き上げた「**洪庵のたいまつ**」について触れられた。主人公の緒方洪庵は1838年に大坂（今の大阪市）で適塾を開き、人材育成に努め、決して名や利を求めずに、世のためにつくした人物である。

その洪庵が灯したたいまつが、弟子である福沢諭吉や大村益次郎などが受け継ぎ、日本の近代を照らす明かりとなったことが書いてある。

市原署長は、この「洪庵のたいまつ」を是非、お子さんやお孫さんに読んでいただきたい述べ講演を結んだ。